

中高生に理系の魅力発信

理系と文系のどちらに進学すべきだろうか？

大学生活や将来のキャリアを見据えて、文理の選択に悩む中高生は少なくない。お茶の水女子大学の理系女性育成啓発研究所は大学や社会で活躍するロールモデルと手を組み、女子中高生に理系の魅力や未来像を発信する。日本は「自然科学」や「工学」の卒業・修了生に占める女性比率が経済協力開発機構（OECD）の加盟国で最も低く、裾野の拡大に挑んでいる。

UPDATE 知の現場

司会役の大学院生から、哺乳類が鳥肌を立てる理由や雪室貯蔵の原理など、日常に潜む自然科学の現象をクイズ形式で学ぶ。保護者が見守る中、参加者は楽しげに正解と思う札を出していた。

女子中学生は化学や生命科学を専攻する院生の生活の実情にも耳を傾け、盛んに質問。保護者から「（理系の学びについて）中学生を対象としたセミナーは少ないのでありがたい」との声があがる。

理系女性育成啓発研究所はメーカーや金融、官庁、海外の大学などで活躍する理系女性とも連携する。中高生に理



系への関心を抱く機会や未来像を提供し、実践知に触れるシンポジウムやセミナーを年

出題に対して参加者は正解と思う色の札を上げる（理系女性育成啓発研究所主催のセミナー）

る。理系という選択肢を身近に示すことが重要だ」と語る。

奈良女子大学と共同で15年に前身の研究所を設け、22年春に単独で運営する現在の研究所が発足した。社会人の理系女性が講演し、文理選択での決断や多様なキャリアを学ぶ「リケジョー未来シンポジウム」の開催は40回を超え、累計4千人超が参加した。ほかに「リーターシップ」「グローバル」「仮想現実（VR）」「ロボットプログラム」など多様なセミナーを開き、効果の検証を重ねる。多くの中高生は大学での学

習風景を具体的に想像しづらい。入試科目との適性や無意識の偏見など、狭い視野で文理を選んでしまうことも。だが本来の関心と違う学部に進むと、後悔を抱きやすい。

女子生徒の場合、男子の比率が高い理系への進学を避けるケースもあるという。しかし選択前に理系学問の面白さを知り、理系女性との接点があると進学後の未来を描きやすくなる。合理的な選択や勉強意欲の向上につながる。

ある女子中学校でのアンケートでは、文系科目よりも理系科目に興味を持つ生徒が多かった。しかし高校入学後の進路選択で理系が少数派になるのは、文系科目への関心の芽生えだけでなく、数学での挫折も重なるためという。

加藤氏は「（理系に興味があるのに）数学への苦手意識や、女性は理系に向かないという偏見から自ら壁をつくる生徒は多い」と指摘し、「（数学で）適性がないと思いつまみでほしい。入学後、研究に必要な要素だけを学ぶこともできる」と強調する。進路に影響のある保護者や教員の啓発にも力を注ぐ。

「自然科学」や「工学」の大学卒業・修了生の女性比率はOECD加盟国の中で、日本が最下位（21年時点）だ。お茶の水女子大学は既存の理学部に加え、24年4月に「共創工学部」を新設する。育成の幅を広げ、「理系＝男性」など性別に対する無意識の偏見がない未来を目指す。（土屋丈太）